

編集後記

2006年4月に、「創価教育研究センター」が発展し、「創価教育研究所」として新たなスタートをきった。業務的には、何か特別に大きな変化があったわけではなく、むしろ継続されているものがほとんどといえよう。池田研究をはじめ、様々な資料の収集・管理、そしてその保存という基本的な作業が、日夜繰り返されているのである。

紀要については、機関名も改称されたのだから、新しい形で始めた方がよいのではないか、という意見が多かった。だが、そうするためには、これまで「創価教育研究センター」で継続されてきた論稿に区切りをつける必要があるだろう、ということで、本書はセンターで刊行してきた『創価教育研究』第6号として発行する運びとなった。

継続という点で象徴的なものが、伊藤論文「『少年日本』掲載の山本伸一郎“ペスタロッツ”について(2)」である。この論文は(1)と合わせると大部なものとなる。本格的な池田研究の論文と位置づけることができよう。本号掲載分で完結となった。また、「牧口常三郎研究ノート」も掲載継続分である。今回で一つの区切りがつけられたかと思う。

その一方で、本年の「創価教育研究所」の活動成果も取り入れた。「牧口常三郎とジョン・デューイ」は、本年度中国武漢の華中師範大学で開催された「池田大作思想国際シンポジウム」での報告成果である。このシンポジウムの概要については、「中国における“池田思想研究”の動向」に詳しい。また、「1960年代の英語圏の書籍・論文に見られる創価学会研究」は、今後の当研究所における池田研究のための基礎的作業ともいべきもので、国内だけではなく海外における研究史をサーベイしようという新たな試みである。

「創価教育研究所」がスタートしたことによって、創立者研究、創価大学史研究等々が新しい段階に入ってきた。その成果は、年とともに明確になり拡大していくと思われる。それに合わせ、研究紀要もより良いものにして参りたいと考えている。多くの方々のご叱正・ご教示を賜れば、これに過ぎたる喜びはない。合わせて、今後のよりいっそうのご協力・ご理解を心よりお願いするものである。(K. K)